

平成24年度

第5回岡山市保健福祉政策審議会における主要な意見

- 1 日時 平成24年10月9日(火) 13:59~16:11
- 2 場所 岡山市保健福祉会館9階 機能回復訓練室
- 3 出席者 委員8名、参考人1名
- 4 傍聴者 報道2者、傍聴者3名
- 5 議題 ・岡山市の就学前教育・保育の在り方(素案)の修正について
- 6 主要な意見

<委員からの意見について>

- ・市民感覚として幼稚園と保育園の違いは、保育時間のみの違いと認識している。文部科学省が幼稚園は幼児教育というくくりで考えているが、その考え自体が国民感覚と乖離していると思う。
- ・幼児教育というのは、学びの基礎とか人格形成の基礎とかなどを行うことであり保育園でも幼稚園でも同じように実施していると思う。
- ・保育園の子どもについては、保留児が少なくなるなど色々な面でよい計画だと思うが、幼稚園の子どもには余りメリットがないように思う。子どもや親の立場にたって、検討したらどうかと思う。
- ・民間の活力を活用するということでは、公立と私立で色んな面で大きな格差がある。その格差を今後どのように埋めていくかが問題だと思う。
- ・保留児童とか待機児童の問題が、一番緊急を要する課題だと思う。この問題を解決する選択肢の一つが、幼保一体化などであり、待機児童の解消や今後の若い世代をどのように支えていくかが記載されていないように思う。
- ・公務員数が増えるということになれば、民営化という路線も明示していく必要があると思う。
- ・今回の素案では、一体化ありきの記載になっているように思う。「施設配置の最適化」の話があり、その後に「保育一元化・一体化」の流れだと思う。

<参考人からの意見について>

- ・現状の保育園と幼稚園の違いについて、幼稚園の先生には研修する時間が与えられているが、保育園の先生には、時間的な制約もあり研修を行うのは難しい。
- ・現状では保育園の先生は、努力も工夫も一生懸命していると思うが、幼稚園で行っている教育活動を保育園の先生が、保育と同時に行うのはやはり限界があり難しいと思う。
- ・市が想定している幼保連携認定こども園は、職員全てが保育教諭という形になり研修時間の確保ができる。そのため、幼稚園及び保育園の職員は、同じ立場となり教育と保育の両方に関わる組織になる。その結果、幼稚園も保育園もレベルアップする考え方だと思う。
- ・想定している幼保連携認定こども園について、午前中は3歳から5歳までの子どもたち全てが、学校教育を受ける。そして午後は、保育に欠ける子どもたちのみが保育園的な活動を受けることになると思う。
- ・財政状況が厳しい中で、今ある施設を有効活用して保護者のニーズに応えていくことが行政の課題である。この状況下で、行政としては、地域ごとのニーズを見直しとそれに合わせた幼保一体化の施設を整備することだと思う。